

小学校 6年 総合的な学習の時間

考える

話す・聞く
書く

育成したい
国語力

目的に応じ、事例等を織り交ぜ、効果的に分かりやすく話す。自らの経験など、他の事柄とつなげ、まとめながら聞く。
事柄や自らの経験など、他の事柄と多面的につなげながら分かりやすく書く。

単元名 「ふるさと歴史探究」

本時の目標 地域の歴史について分かったことや考えたことを伝える効果的な方法を考える。(表現力)

本時の流れ

導入

本時のめあてを確かめる。

めあて：分かったことや考えたことを広く伝える効果的な方法を考えよう。

展開

伝えたい内容を交流し合う。
伝える方法を出し合い、それぞれのよさを確かめる。

自分が伝えたい内容、方法、相手を決める。

- ・理由を明確にしてワークシートに書く。
- ・書いたことを基に発表する。

まとめ

友達の構想のよい点を認め合い、次時への見通しをもつ。

国語力育成の視点

平成17年2月、国立教育政策研究所で実施された「音楽等質問紙調査」の結果では、総合的な学習の時間については、「本やコンピュータを使って情報を集めて調べること」「観察・実験、見学・調査などによって調べること」という設問に対して、「よくできた」「どちらかというよくできた」と肯定的に回答している子の割合が高い一方、「調べたことや自分の考えをまとめ、報告・発表すること」「総合的な学習の時間で学んだことを生活に生かすこと」という設問になるにしたがって、肯定的に回答した割合が低くなっています。活動や体験それ自体はできて、そこで得た情報を、自らの考えとしてまとめたり、発表したりすることは、子どもたちの学習の手ごたえになりきっていない課題が見えています。

本指導例では、体験したことや調べたこと、そこで生まれた自分の考えを整理していくプロセスに、言語活動を適切に位置付け、発達段階に沿って活用することで、考える力を高めることができるように提案します。

視点 ①

既習の表現方法を思い出し、多様な意見が出るようにします。相手意識、目的意識を明確にもって、考えさせることが大切です。

理由を付けて表現方法のよさを話し合う中で、情報をつないだり、吟味したりして、自分が伝えたい内容、伝えたい相手に適した方法を考え、イメージ化していくことができます。

視点 ②

考えたことを明確にして、構想を創り出していくためにも、目的に即した話し合いするためにも、「書く」活動が必要です。考えたことは、中心点を明確に箇条書きで表します。それを基に発表をします。

聞き手は、友達の構想のよい点を認め、メモに取ります。

《児童の声》

パンフレット：いつでも見ることができます。短い言葉でよく分かるように書いてあります。配るだけで伝えることができます。

新聞：家でも見てもらえます。分かりやすく構成するのが難しいです。

実演・劇：言葉だけで表せないことも伝えられます。その場で表現するだけで後で見るとはできません。

看板・ポスター：広い範囲の人に伝えることができます。一目で分かりやすいです。伝えたい中心をはっきりさせないとけません。

地図：場所が分かります。詳しい話が分からないので地図の横に吹き出しを付けたいと思います。

絵本：小さい子にやさしくふるさとの歴史を読み聞かせてあげられます。

絵を描くのが難しくありませんか。

わたしは、寺の について調べたことや考えたことを、これから歴史を学習する5年生に伝えたいと思います。

初めは、パワーポイントを使い、写真を入れて伝えたいと考えていました。でも、話し合いをしながら、いつでもすぐに見られて、これからの学習に役立つようにパンフレットにまとめたほうがよいと考えました。

そこには、歴史だけでなく、話をしてくださった地元の人の今の願いや思いも紹介し、みんなでふるさとのよさを守る気持ちも伝えていきたいです。

ワークシート

伝えたい相手
理由
伝えたい内容
①
②
③
伝える方法
選んだ理由
工夫したい点
①
②

低学年

中学年

高学年

中学前

中学後

国語

社会

数算
学数

理科

生活

外国語

活特別

道徳

な総合
学習的